



野原 恵子 議員
(日本共産党
幕別町議員団)



アイヌ文化拠点施設は、実質設計の概要が示され本年度から本格的に工事が行われる。2026年度から展示館棟・宝物堂が公開開始となり、生活館棟でも専門的な知識や経験を持つている人が、来館者へ情報発信の役割を担っていくとしている。

アイヌ民族に対する理解を深めていくには、明治政府になってから同化政策として、アイヌ民族が培ってきた言葉も文化も奪いアイヌを蔑視してきたことへの認識が必要である。また、2019年5月に「アイヌ新法」が施行され、法律として初めて先住民族として明記されたことなどを学ぶことができる施設になることが必要と考える。

(1)常設展示・企画展示について
①アイヌの人々が意思決定に参画していくことは。
②同化政策の歴史について理解を深めていく手立ては。

問 アイヌ文化拠点施設の充実を

答 アイヌ関係者のみなさんと十分に協議した上で進めていきたい

教育長

(1)①展示館棟の常設展示の内容は、幕別アイヌ協会やマクンベツアイヌ文化伝承保存会をはじめ、公益社団法人北海道アイヌ協会の方々が参画する「展示シナリオ会議」を令和4年度に3回開催し、常設展示の内容や展示構成などのほか、展示に係る衣服、民具資料の複製方法等について意見をいただき、令和5年3月に「幕別町アイヌ文化拠点空間整備展示基本計画」を策定した。

展示館棟の実施設設計にあたっては、引き続き意見をいただきながら進めるとともに、特別展示の内容についても、アイヌ関係者のみなさんと十分に協議をした上で進めていきたいと考えている。

②基本計画では「アイヌ民族の歴史、伝統文化、伝承への取り組み」を展示テーマとし、常設展示室を「ようこそ幕別アイヌの世界へ」、「身近に存在するアイヌの文化」、「アイヌ民族の歴史」、「アイヌ民族の伝統文化」、「チロットライブ

ラリー」の五つのゾーンに分類している。アイヌ民族が歩んできた歴史を展示し、現代につながるアイヌ伝統文化の継承に焦点を当てた内容とし、アイヌ民族の歴史や伝統文化などについて学ぶ機会を提供していく。

問 ふるさと館の今後の方向性は

答 既存施設の活用を含め、検討を進めていきたい



ふるさと館は1979年（昭和54年）に町の歴史資料を保存・展示する施設として開設された。町民から寄贈された展示物は開拓時代に使われた道具などであり、生活実態がリアルに再現され、開拓時代の先人たちの生活の厳しさが如実に伝わってくる。しかし、施設は老朽化しており、対策が急がれる。施設の今後の方向性を検討すべきではないか。

教育長

ふるさと館の整備は、平成27年3月に策定した「（仮称）幕別町郷土文化資料館整備等基本構想（案）」で、新たな郷土文化資料館として、蝦夷文化考古館とふるさと館の機能を併せた施設を蝦夷文化考古館敷地に新築、または蝦夷文化考古館を敷地内で新築するとともに、ふるさと館についても別の場所に新築することを併せて検討することとしていた。

施設の整備については、基本構想（案）を踏まえて検討を行ってきたが、有力な財源の目処が立たない中で、令和元年5月にアイヌ施策推進法が制定され、アイヌ政策推進交付金が創設されたことから、当該交付金を活用し蝦夷文化考古館と千住生活館の機能を併せ持つアイヌ文化拠点施設を整備することとし、ふるさと館については、改めて検討するところである。

ふるさと館の今後の方向性については、建設から54年が経過しているが、多額の費用を費やしての大規模な改修等だけでなく、既存の学校教育施設や社会教育施設などを活用することを含め、検討を進めていきたいと考えている。